

## 第 1 章 まちづくりの目標（都市像）

～善光寺平に結ばれる～  
人と地域がきらめくまち“ながの”

長野市は、四方を上信越高原国立公園をはじめとする美しい山並みに抱かれ、日本アルプスの清流を集める犀川と詩情豊かな千曲川など、四季折々の大自然の恩恵を受け、善光寺平を中心に 1,300 年の長きにわたり、善光寺の門前町として栄えてきました。

また、武田信玄と上杉謙信が戦った川中島合戦場、真田藩の城下町松代、伝説の里戸隠や鬼無里など全国的にも知られており、1998 年にはオリンピック・パラリンピック冬季競技大会の開催により、観光都市、国際都市として発展を遂げてきました。

一方、長野県の県都中核市として都市機能が集積するとともに、北陸新幹線や高速道路などの高速交通網により、太平洋側と日本海側を結ぶ交流拠点都市としての機能を併せ持っています。

多くの市民により築かれたこれらの財産を大切に、未来のまちを支える人、多彩な文化、活気ある産業を育み、豊かな自然との共生を図りながら、魅力と活力に満ちた“ながの”をこの地に結ばれる全ての人とともに創っていきたいと考えます。

そして、多様な選択肢の中から市民自らが決め、自信と勇気と責任を持って歩むことで、持続的に発展する地域を創造していく長野市でありたいと願います。

## 第2章 まちづくりの視点（都市経営戦略）

第1章に掲げるまちづくりの目標を効果的に達成するために、「まちづくりの視点」を3点掲げます。

内容は変えず、分かりやすく簡潔に修正

これらは、都市経営の観点から資源を最大限にいかし、住む人（市民）の力をまちづくりに向けて自発的・相乗的に発揮していくための視点となります。

また、同時に、本構想後段の「まちづくりの基本方針編」で示す行政経営の方針や各分野別のまちづくりの方針を包括的、横断的に貫く方向付けでもあります。

### 視点1【パートナーシップによるまちづくり】

**全ての分野において市民が意欲的にまちづくりに参画し、市民と行政が協働で創る“ながの”**

市民と行政がそれぞれ適切な役割を担ってまちづくりを進めるため、市民が主体的にまちづくりと向き合える環境づくりが必要です。

このため、市民はまちの主人公との認識に立ち、まちづくりに参加する市民の「やる気」を支援していきます。また、個人やコミュニティ、NPO等と行政がお互いの持てる力と役割に応じて分担・補完しあい、対等の立場で協働できるまちづくりを推進します。

骨子は変えずに、内容を全体的に整理・修正

### 視点2【「長野らしさ」をいかしたまちづくり】

**「長野らしさ」をいかし、「地域」<sup>1</sup>の魅力とそれを支える「人」の力でいきいきと発展する“ながの”**

**歴史、文化、自然など大切なものをいかし、住んで誇れる地域づくり  
魅力をみがき、人をひきつける、訪れてみたくなる地域づくり**

少子・高齢化や都市間競争などを踏まえ、今後もいきいきとした“ながの”であるためには、自ら誇ることができる地域、また、市外からも訪れてみたい、住んでみたいと感じられるような、魅力的な地域づくりを進める必要があります。

このため、善光寺をはじめとする歴史や文化、豊かな自然、オリンピック・パラリンピック・スペシャルオリンピック開催の体験、素朴で温かい人やまちの風情など、“ながの”の良さを大切にするとともに、その要素を地域づくりにいかしながら、様々な場面で「長野らしさ」が感じられるまちづくりを推進します。

また、地域の魅力をみがくことで信頼される“ながの”ブランドを築き、これを基盤として観光や産業をはじめ多様な分野で地域外の人、文化、情報などと交流を図り、

その活力を引きつけ、地方拠点都市としての存在感を確立します。

このようなまちづくりに向けて、『地域』の魅力と、それを見つめ支えようとする『人』の力を継続的に発揮できるように取り組んでいきます。

**視点 3 【健全で効率的な行政経営市民の目線に立つ行政経営】**

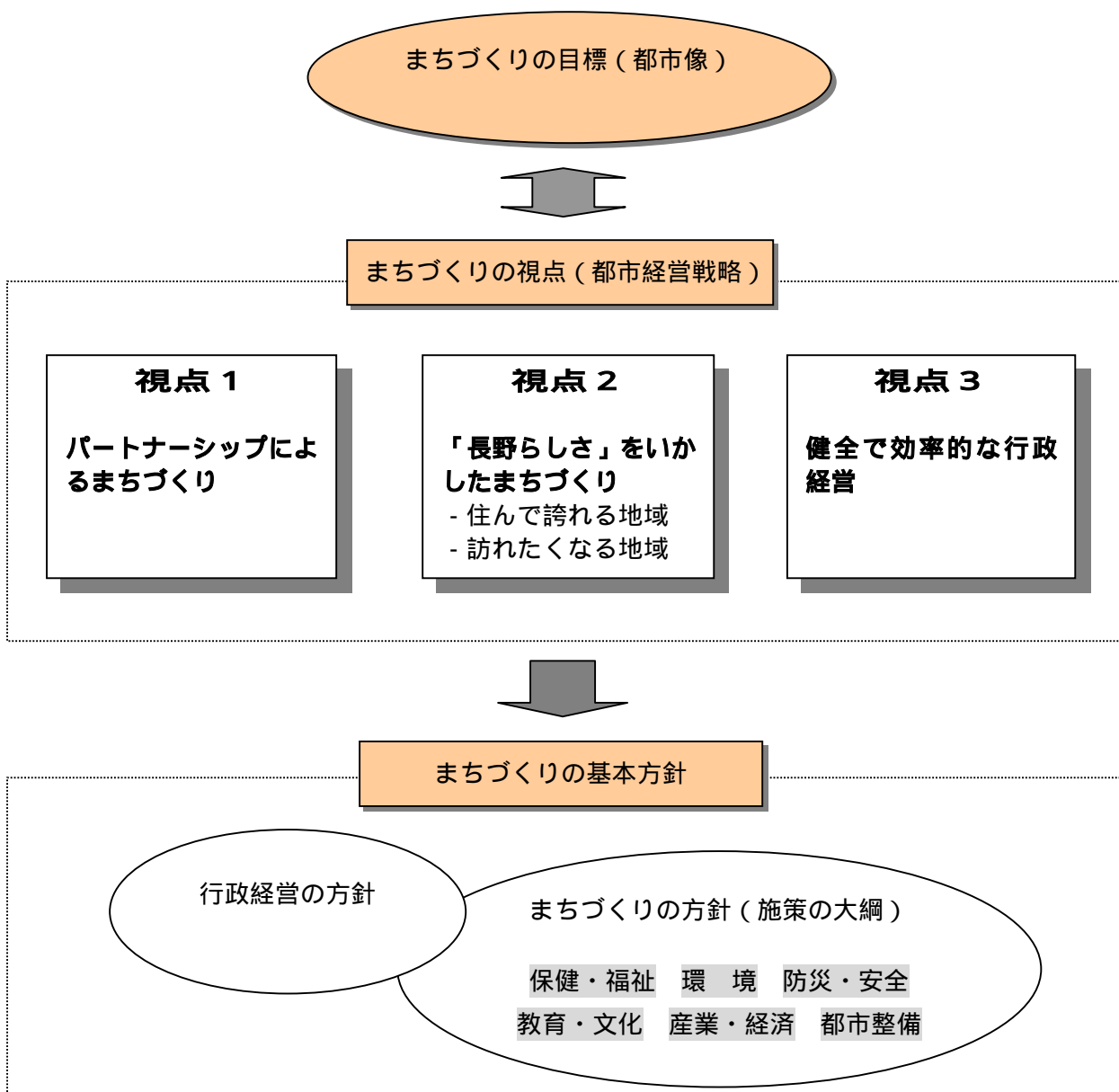
**民間活力の導入や絶え間ない改革を推進し、効果の最大化・最適化の行政経営を行う  
“ながの”**

新しい時代のまちづくりを推進するために、行政自身が新しい力、新しいやり方を取り入れ、従来の発想を転換していく必要があります。

このため、市民一人ひとりの力を含めた民間活力を必要な分野に効果的に導入していきます。また、行政のスリム化や効率化等、常に業務を見直し、最小の費用で最大の市民満足の達成を目指します。

- 
- 1 地域...地域には、日常生活圏や行政区など身近な範囲としての小地域、また、それらが共通する環境や地理的要因などにより相互に関連して一体性を持つ中地域、さらに、より広く長野市全体のような大地域がある。地域の定義はその使い方や目的によって多様であり、第四次長野市総合計画では、小地域 中地域 大地域のように密接につながり、相互に関連し合うそれぞれの地域すべてを含めた概念を「地域」と総称する。

<まちづくりの視点の展開図>



---

## 第3章 基本指標

---

### 1 人口

#### (1) 定住人口

目標年次（平成28年）における長野市の推計人口 36万7千人

日本の総人口が減少傾向に入りつつある中、本市の定住人口は、少子・高齢化の進行による自然増減(出生数 - 死亡数)の減少と、近年の転出超過傾向による人口流出により、平成18(2006)年に減少に転じ、以降減少が続くと予測されます。

今後、この状況で推移すると、総合計画の目標年次である平成28(2016)年には36万7,000人程度の人口になると推計されます。

本市は、県都、長野広域圏の拠点都市としての役割を担っていることから、活力に満ちた都市を形成していくことが求められています。

このため、産業、雇用の創出や都市と自然が調和した住みやすく魅力あるまちづくりを進め、人口の流入と定着を促進するとともに、少子化対策の推進により出生数の増加を図り、推計値を上回る定住人口の確保を目指します。

(以降、年齢別構成、世帯数及び就業人口の各種推計値は省略)

(定住人口、世帯数及び就業人口の将来推計値は、「平成17年国勢調査」確定値公表(平成18年10月予定)後に再推計のうえ修正する予定)